



校長室だより

2026年1月23日

丹波市立進修小学校

校長 松田 亜矢

一人ひとりに合った学びを大切にする学校を目指して

～みんながつくる みんなの学校～

1月23日(金)には、参観日、懇談会にお越しいただきありがとうございました。また、保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

懇談会では、私から今の子どもたちの育ちの背景と、それを踏まえて学校で大切にしている学びの在り方、そして特別支援教育の視点についてお伝えしました。

1 今の時代を取り巻く背景

今の小学生は、「ジェネレーション・アルファ」と呼ばれる世代です。生まれた時からデジタル機器が身近にあり、社会や生活環境が大きく変化する中で育ってきました。また、幼少期にコロナ禍を経験しました。

人と関わる機会が制限され、集団での活動や対話の経験が十分に積めなかった時期を過ごしています。そのため、学校生活の中で次のような姿が見られることがあります。

- 外で遊ぶ時間が減り、生活リズムが乱れやすい
- 自分の気持ちを言葉にするのが難しい
- 困っていても「助けて」と言えず、我慢してしまう
- 友だちとの関係に不安を感じやすい

これらは、**子どもたちの能力の問題ではありません。**

育ってきた環境や経験の違いによるものであり、多くの子どもが同じ課題を抱えています。

2 子どもたちにも誰にとっても大切なものの

子どもたちは、学力だけでなく、「ウェルビーイング」を大切にしていきたいと思っています。ウェルビーイングとは、簡単に言うと「心も体も安心して、自分らしく過ごせている状態」のことです。

- 学校に来ると安心できる
- 失敗しても大丈夫だと思える
- 自分の気持ちを聞いてもらえる
- 困ったときに助けを求められる

この「安心の土台」があってこそ、子どもたちは挑戦し、学び、友だちと関わることができます。

3 だからこそ、学校の「学び方」は変わっています

このような子どもたちの現状に対応するため、学校では学びのスタイルを見直しています。

従来のような「一斉に説明を聞き、同じ問題を同じペースで解く授業」も大切にしながら、それだけに偏らない学びを進めています。

◆ 自由進度学習・個別最適な学び

- 子ども自身が目標や学習方法を選び
- 自分のペースで学習を進める授業を行っています
- 分からないときは、先生に聞く、友だちと教え合う
- 納得するまで考え、進みたい子はどんどん先へ進む



同じ1時間の授業でも、

- じっくり取り組む子
 - 友だちと話しながら考える子
 - 次の課題へ進む子
- と、学び方は一人ひとり違います。

◆ 教室がにぎやかな授業について



授業中、子どもたちの声が活発に聞こえることがあります。それは、

- 考えを伝え合っている
 - 分からないことを聞いている
 - 教え合い、学び合っている
- 姿です。



静かな教室=よい授業とは限りません。考えが止まってしまっている場合もあります。

声が行き交う教室は、学びが動いている教室なのです。

4 一人ひとりの違いを大切にする特別支援教育

子どもたちは、一人ひとり違った良さや個性をもっています。得意なことも、苦手なことも、人との関わり方も様々です。

学校では、特別支援教育の視点をすべての教育活動の土台として考えています。



◆ 学びの場はいろいろあります

- にぎやかな集団が苦手な子
教室よりも静かな環境の方が集中できる子
→ 別室や保健室で学習することができます。
- コミュニケーションが苦手
状況に応じた行動を学びたい子
→ 通級指導で専門的な指導を受けます。
- 特別支援学級を選択した子
→ 学級の学習を進めながら、**自立活動**で苦手を補い、力を伸ばします。



◆ 学校全体で支える体制

- 授業中の**支援員の付き添い**
- スクールカウンセラーによる相談
- 専門家との連携
- 一人ひとりに応じた**合理的配慮**



「支援を受けること」は、特別なことではありません。誰にとっても必要な学びの形の一つです。

5 違いを認め合う学校づくり

学校では、保護者の皆さまへの啓発だけでなく、子どもたちにも学校集会などで話をしています。

- 人はみんな違っていい
- 困ったときは助けを求めていい
- 助け合うことは当たり前のこと

こうした考えを、日々の生活の中で育てています。

6 保護者の皆さまへ

学校では、

- 一斉の学び
- 個別の学び
- 協働的な学び
- 支援を必要とする学び

を組み合わせながら、誰もが安心して学べる学校を目指しています。

ご家庭では、

「今日はどんな気持ちだった？」

「分からぬとき、どうした？」

といった、**気持ちや経験を言葉にする対話を大切にしていただけ**ると、学校での学びにつながります。

また、失敗は繰り返してこそ、成長につながります。失敗しても大丈夫、できなくても助けてもらつたらいいよといった声かけをしてください。

おわりに

子どもたち一人ひとりに、居場所と出番がある学校。

自分に合った学び方で、自分らしく成長できる学校。

これからも、家庭と学校が手を取り合いながら、

子どもたちの「できた」「わかった」「伝えられた」を増やしていきたいと考えています。

どうぞ引き続き、ご理解とご協力を願いいたします。